

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812610		
法人名	有限会社 グループホームさんぽみち		
事業所名	グループホーム さんぽみち中仙		
所在地	秋田県大仙市長野字太田袋1-1		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を通じて毎日ラジオ体操、散歩、手足の運動を実施しており利用者の筋力低下防止に努めています。施設は広大な田園風景の中に立地しており、二階の居室からは鳥海山や大曲の花火を眺めることができます。また、食前のパタカラ体操は当番制にして一人ひとりが役割を持つことで、意欲低下防止に繋がっています。春には家庭菜園でミニトマト、きゅうり、なす、ゴーヤ等を協力して植えて、収穫も一緒に行っています。レクリエーションにも力を入れており、毎日利用者の希望を聞きながら、トランプや風船パレー、カルタ、カラオケ、ぬり絵、輪投げ、魚釣り等楽しんでもらっています。秋には運動会を開催。皆さんが参加できる競技種目をそろえる等、行事開催日にはスタッフ同一丸となって工夫を凝らして、充実した日々を過ごしていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和6年1月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地が広く玄関前の家庭菜園では様々な野菜を育て、その生育状況は利用者の関心を誘っており、外に出るきっかけとなっている。散歩、戸外での体操や外気浴にも活用されている。初回のアセスメントから得た情報とホーム入居後の様子を合わせて、塗り絵・パズル・読書・テレビ視聴等の日中の過ごし方を検討しマッチングさせている。ホームで働く職員にとって、支援に対する意見の伝えやすさや困ったことの相談しやすさがあり、定着し長く働くことができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に添って支援することを確認する為に職員が声を出して読むようにしている。体力維持の為に毎日ラジオ体操、散歩、手足の運動を行っている。	朝の申し送り時に、職員が理念を読み上げている。理念にある自分らしく生きがいを持ったくらしや、体力の維持向上について特に意識して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、敬老会も今までのように開催されなくなってきているが、地域の方との交流を深める意味でも参加していきたい。(今年はジャンボウさぎフェスティバルに行きます。)	小学校や中学校の発表会等の行事に招待されていたが、コロナ禍のため中止されている。近所付き合いも希薄になりがちなため、運営推進会議で現状を発信し理解を求めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	部落の座談会に出席してもらいながら、認知症への理解を求めたいと考えているが、コロナやインフルエンザの感染防止の為に実現出来ないでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平日の開催なので仕事を持っている家族さんの出席がむずかしいが、電話で意見や要望を伺いサービス向上に活かしている。	会議の日程について、家族に連絡し面会のタイミングと合わせて、毎回違う家族が参加している。民生委員が参加しているため、利用者の欠員が出た場合には相談している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの担当者が運営推進会議に参加となっている為、色々な情報などを知ることが出来る。また、生活保護の担当者とも常に連携し、協力関係を築いている。	運営推進会議の際に、避難訓練における災害想定の種類を複数設けることや、どんぱん体操を取り入れること等の助言がある。生活保護の担当者とは、電話や来所などで連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通して身体拘束及び虐待について考え、意見を出し身体拘束をしないケアに努める。常にまわりで拘束や虐待が行われてないか職員間で注意を払い防止に努めている。	身体拘束の事例はない。研修の年間計画があり、このホームの身体拘束等の適正化のための指針を基に職員間で共有し、意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在1名の方が制度を利用している。毎月の訪問時に職員が同席し体調や近況について報告。新任の職員も含めて制度について学ぶ機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は内容をしっかりと説明し、後でトラブルにならないようにすること、不安や疑問点をその場で話してもらい理解力を得ている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	会議の中では話しにくいことも電話や他の手段で聞き取りを行い運営に生かしている。	感染症等に配慮しながら面会の機会を設けて、少しずつホームに足を運んでもらえるよう取り組んでいる。毎月郵送する利用料請求書に、利用者の様子を記入し同封することで、本人の状態を共有し意見を出しやすくするよう努めている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	運営や処遇改善についての意見は、職員から大いに出してもらい代表との意見交換の場を設けて改善に繋げている。	近くにある系列のショートステイ事業所に社長がおり、打ち合わせ等の会議時に来所している。ホーム敷地内の除雪、雑草の刈払い、ゴミの収集等を相談し、対応してもらっている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は実現できていないが、今後機会を作り相互訪問等で、サービス向上に努めたい。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人が困っているや不安に思っていることに耳を傾けて、安心して過ごしてもらうような関係作りに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの思いを組み取りながら、信頼を築いていこう支援している。困ったことや不安なことを話せる関係でありたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者だけの関係性のみでなく、出来ることは一緒にやって頂きながら役割と意欲を失わないよう、日常の暮らしを共にする気持ちで接している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて電話や毎月のお便りを通じて近況を伝えている。また、受診時にもその結果を速やかに報告し、安心して頂いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの方に電話をかけたり、年賀はがきを出すなどの支援をしている。面会の申し出があれば、感染対策をしてその場に同席し近況を伝えている。	親戚にお悔やみの電話をする等、できる範囲で家族との面会の機会を設けている。ひ孫に初めて会えたことについて、喜びの言葉が聞かれたとのこと。毎月のお便りには、近況として写真を同封し好評を得ている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じテーブルにして、孤立しないよう気配りして支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族さんから相談があれば、他の施設の情報等を伝えている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは会話交わす時は、普段から思っていることや要望を聞き取り、また家族とのモニタリングで本人に対する希望や意向の再確認をしている。	入浴介助やトイレ介助の際の会話から、利用者の思いや要望を聞くことが多いとのこと。職員それぞれが聞いた内容を、申し送りノートに記載し、情報交換している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントで得た情報や、入所後の日常生活状況、身体状況について本人からの聞き取りやスタッフと情報共有し、把握した事柄を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	利用者の状態が変わった時は本人、家族と新たな課題について話し合う。全スタッフにも状況説明と新たな課題の支援内容の変更について共有。必要時ケアプランの見直しを行っている。	当日勤務している職員が集まり、担当者会議を開き話し合いをしている。不在の職員からは、利用者にまつわる内容をメモ書きしてもらい、日誌や申し送りノート等から変化を読み取ることで、計画に反映している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り時等状態に変化があれば、報告と共に本人の様子が分かるよう簡潔に個別記録に記載。微妙な事柄は継続し、必要時プランの見直しに役立てている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所、消防署等の緊急施設、かかりつけ医、嘱託医の医療機関に協力を求め安全で安心な生活が出来るよう努めている。近隣の方々からの協力を得ている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診や訪問診療を行い、体調の変化に応じて支援体制を整え対応している。処方薬について不明な点があればかかりつけ薬局に問い合わせをして、安心して服薬出来るよう支援している。	通院は、訪問診療を活用したり、体調の状態によっては、かかりつけ医から紹介状を作成してもらうことでホーム近くの協力医療機関に変更し対応したりしている。遠方の医療機関へは、家族の協力で通院を継続している。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所(ショートステイ)の看護師のアドバイスや情報を得たり、代表取締役とも意見交換し常に早めの受診対応に努めている。かかりつけ医にも協力を得て相談している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に関しては病院、医療関係者とは連携を密に取り合いながら、入院前の生活に早めに戻れるよう情報交換や相談を行っており、本人は退院後も戸惑うことなく生活しています。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象となる方はいないが、今後の方針としては視野に入れ具体的な方針を打ち出し、出来る限り現実的なものにしていく為に、多面的な関係者と共に支援していきたい。	ホームとして看取りは実施していない。利用契約時に、体調に合わせて利用者それぞれの主治医と相談しながら、ホームでの生活が継続できるかを検討することを伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網が整備されているため休日、夜間問わずに連絡できる体制を整えている。また、新任の職員も含め応急手当や初期対応の訓練を行っていきたい。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。全スタッフが常時危機管理意識を持ってもらうよう、非常口や緊急時の対応に関して訓練を受けている。	同系列のショートステイ事業所に共有の備蓄品を準備している。事業継続計画を4月に向けて、今後作成すること。運営推進会議のメンバーである民生委員が訓練に参加し、利用者と一緒に消火器の使用方法について学んでいる。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた生活スペースを大切にし、入浴や食事、好きなこと等を把握し穏やかに一日を過ごして頂けるようにしている。	個々の尊重とプライバシー保護について、内部研修により職員同士が共通認識を持てるよう努めている。日々の過ごし方において、塗り絵、パズル、読書、テレビ視聴等個々の好みに合わせて提供している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度から始まり、身だしなみの不十分な際には声掛けし、また、自身で行えない方には支援している。床屋さんに定期的に訪問してもらい、散髪や顔そり等の支援をしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に好き嫌いがあるか聞き取りして、嫌いな物は代替を提供している。野菜の皮むきや納豆汁用の納豆をつぶしてもらったりと一緒に準備を行い、食器拭きも毎日手伝ってもらっている。	誤嚥やむせ込みを予防するため、食前に口腔を鍛えるパタカラ体操を取り入れている。食事には、敷地内の家庭菜園で取れた野菜のほか、家族から差し入れられた食材を取り入れて調理している。好評の干し柿は、利用者と職員が協力して皮むきをしており、今年は3回作ったとのこと。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉や魚、野菜をバランス良く含んだメニュー作りを意識しながら、献立を作り、また、水分不足気味になってしまう方には体調を考えた上で利用者に聞き取りをして、昔飲んでいた「ドクダミ茶」等の提供を支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の都度、声掛けしている。入れ歯装着の方には外してもらい、うがいや入れ歯の洗浄と清潔維持に支援している。入れ歯の合わない方には入れ歯安定剤を使用してもらい、固定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い利用者には小まめにトイレ誘導を行い、尿取りパットの使用を減らすように支援している。	めまいがあり歩行に配慮が必要な利用者の部屋にポータブルトイレを置いているが、活用には至っていない。トイレでの排泄のため、声掛けやトイレまでの付き添いと見守りを行い、自立に向けて取り組んでいる。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便間隔を確認し、食物繊維のある食材を食事に取り入れ、歩行運動や水分補給等を行い、排便間隔が空いてしまう方には薬によるコントロールも行っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	火、金の週2回の入浴を行っているが、体調不良を訴える方には清拭を行って清潔を保っている。夏場は希望があればシャワー浴も可。	高齢と身体的状況から、浴室用ストレッチャーでシャワー浴をしている利用者があるが、近々、他事業所に移行予定とのこと。入浴を敬遠する場合は、着替えを促すことで入浴のきっかけづくりをしている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	春から秋の天気の良い日は外に出て体操をしたり、散歩を行っている。冬の間は広い廊下を使い体操や歩行運動を行っている。布段等も天日干しし気持ちよく休めるようにしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に合った処方薬を服薬支援している。誤薬や飲み忘れ防止にも全スタッフが緊張感を持って支援している。記録も徹底している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の前のお口の体操に利用者を担当者割りし予定表を作成。順番に巡ってくる事により意欲低下防止に効果も見られている。コロナで外出できない分、レクリエーションにも楽しんでもらえるように工夫している、		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は利用者さん同行で買い物に行っていたが、年齢と共に行ける利用者さんもいなくなってしまった。時々家族さんとご飯を食べに行く方もいましたが、コロナやインフルエンザの感染の不安もあり、実現出来ていない。	コロナ禍の影響から外出や外食を控えていたが、今年度から地元のイベントであるジャンボウサギフェスティバルに出掛けたり、桜やラベンダーの見学のためドライブを実施したりしている。敷地内のスペースでは、家庭菜園をしたり、散歩や外気浴をしたりして気分転換等を図っている。	今年度から利用者の体調を考慮しながら外出の機会をつくりだしているため、感染症対策を講じながら、近所への散歩を含め、さらにドライブや外食等の企画、実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設ではお金の所持を禁じているが、必要な買い物があれば立替で購入している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整をこまめに行い、ホールには季節を感じる貼り絵や利用者さんの作った風鈴等を飾り、四季を感じてもらっている。	温湿度計を午前午後の2回確認し、日誌に記録しながら、その変化に配慮している。利用者それぞれが作成した紙細工や、利用者と職員が共同して作成した季節毎の掲示物が壁面にあり、季節感を演出している。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、雑誌や新聞、まちがい探し等を見て楽しめるようにしている。また、気の合った利用者さん同士を同じテーブルにすることで、和気あいあいと楽しんでもらっている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	枕や布団は使い慣れた物を持って来てもらい、タンスの中身は本人が使いやすいように衣類を入れている。また、時計やぬいぐるみ、写真等を置いて居心地のいい環境作りをしている。	ホームが備え付けたベッドとタンスがあっても、使い慣れた家具を置くに十分なスペースが確保された居室となっている。以前飼っていた猫の写真や自分で作った紙細工の作品等が飾られている。各居室の大きな窓からは、大曲の花火を鑑賞することができる。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下は安全に歩行が出来るように整備し、転倒の誘発となる物等は置かないように注意している。一日の流れを大きく書いて誰もが分かるように提示している。		